

対談 今福龍太 × 朝吹真理子

抽斗ひきだしのなかの海、

迷宮のなかの虎

—ソントグ、ボルヘス、生きている石、そして「永遠」について

今福龍太と朝吹真理子—— 一見すると、少し突飛な組み合わせのように見えるかもしれない。しかし、時間と空間が層となって絡み合い、その迷宮のうちにイメージが漂う二人の作品世界を知る者にとって、むしろ不思議な感覚の一致がそこにはある。重要な接点となったスーザン・ソントグ、両者のイメージ世界にとって決定的なボルヘス、そして二人のこれまでの著作、近著について語り合う。

日時：2019年 **12月11日** (水)
16:00-18:00 (15:30 入場開始)
場所：東京外国語大学 アゴラ・グローバル
プロメテウス・ホール

一般公開・入場無料・予約不要



今福龍太

文化人類学者、作家・批評家。
2017年、『ヘンリー・ソロー 野生の学舎』で読売文学賞(随筆・紀行部門)を受賞。『クレオール主義』(青土社、1991)、『群島-世界論』(岩波書店、2008)、『薄墨色の文法』(岩波書店、2011)、『ハーフ・ブリード』(河出書房新社、2017)など多数の著書。2017年から18年にかけて、水声社から著作集(全5巻)が「パルティータI-V」として刊行(初の小説も含む)。最近刊として『宮沢賢治 デクノボーの叡智』(新潮選書)、『ボルヘス「伝奇集」迷宮の夢見る虎』(慶応大学出版会)。

朝吹真理子

デビュー作となる『流跡』(『新潮』2009年、単行本は新潮社、2010年刊行)が、堀江敏幸の選考により2010年にBunkamuraドゥマゴ文学賞を受賞。2010年に同じく『新潮』に発表された『きことわ』は、2011年の芥川賞を受賞(単行本は新潮社、2011年)。2018年には三作目となる小説『TIMELESS』(新潮社)、そして2019年にエッセイ集『抽斗のなかの海』(中央公論新社)刊行。



司会：山口裕之
(東京外国語大学)

主催：東京外国語大学言語文化学部
共催：東京外国語大学総合文化研究所

お問い合わせ：総合文化研究所 tufs422ics@tufs.ac.jp